

平成 30 年 2 月臨時記者会見

【2月15日(木)午後2時／4階特別会議室】

会見項目

1 平成30年度宮古市当初予算（案）について

（財政課）

会見内容

別紙資料の通り。

記者との質疑応答

岩手日報記者

新年度予算で、特に重点を置いた点を教えてください。

市長

新たに創設する「子ども・子育て幸せ基金」を中心として行う事業がまず一つ。待機児童の解消に取り組むほか、子供を育てていく過程の中で、負担感がないような形、子供が教育を受けるときに差が出ないような奨学金制度、といったことなどをきちっと行っていきます。

健康面については、健康寿命と平均寿命に10歳くらいの差があることから、それを可能な限り1歳でも2歳でも近づけていけるように力を入れていきたいと思っておりますし、三陸沿岸道路、宮古盛岡横断道路、三陸鉄道といったインフラが整備されることに関しては、利用しやすいような、活用できるような体制づくりという意味で、三陸鉄道には3つの駅を設置し、道路に関しては道の駅に立ち寄ってもらう、便利に使ってもらうための施策に取り組めます。

産業面については、若い人たちが地元に残って仕事をしてもらえるよう、産業振興基金に2億円を積み立てて、特にも、1次産業の担い手育成に力を入れ、仕事がしやすい形、導入しやすい形をつくっていきます。

岩手日報記者

健康寿命の推進は前年当初予算にもあったと思いますが、新年度は、より強化するということでしょうか。

市長

そのとおりです。

毎日新聞記者

予算規模は、震災以降、いちばん少ないですか。

市長

はい、震災以降では最小規模です。一般会計の通常分は、大幅な増減はなく、250～300億円で推移していますが、震災対応分の予算が復興事業の進捗とともに少なくなっていますので、一般会計の通常分と震災対応分を合わせた予算規模は、平成25年度がピークで約850億円。平成29年度が約470億円、新年度が約400億円と下がっています。

毎日新聞記者

港湾機能強化事業について伺いますが、タグボートは必要なのでしょうか。

市長

大きい船になると、静穏度が悪いと自力では接岸できないときがあります。大型客船も風が良ければ自力で接岸できますが、海が少し荒れると船体を押してあげなければなりません。フェリーも風が悪いときはタグボートで押さないと接岸できないので、タグボートが必要になります。これまで、客船などが寄港するときは、八戸港や釜石港からタグボートを持ってきていましたが、フェリーは毎日入港しますので、タグボートを1艘、常駐させることにしました。

毎日新聞記者

魚市場整備事業とは、トイレなどの整備でしょうか。

市長

魚市場既設棟を、新たに整備した高度衛生管理の魚市場に合うよう機能アップするものです。昔からの古い既設棟なので、機能強化のための改修をしなければなりません。

河北新報記者

災害公営住宅の収入超過世帯の減免について、市の考え方を教えてください。

市長

従来の公営住宅の家賃算出方法で計算すると、かなり高い家賃になります。今まで、公営住宅には所得制限がありました。ところが、災害公営住宅は所得制限がありません。そのため、収入が多い人は3年経過後の家賃が大幅に増加します。居住者の負担がたいへんになりますので、県営の災害公営住宅と市営の災害公営住宅とで格差が出ないように、県と協議して調整しているところです。

河北新報記者

4月に導入するのは決定ですか。

市長

正式決定ではないですが、妥当な線（金額）まで調整できたと思っていますので、県と足並みをそろえて始めることができると思います。

毎日新聞記者

基金の取り崩し額はどれくらいですか。

市長

基金の取り崩し（繰り入れ）は総額で約55億円です。内訳は、震災関連の基金繰り

入れや財政調整基金の繰り入れなどです。

毎日新聞記者

財政調整基金の残高はどれくらいあるのですか。

市長

当初予算で取り崩したあとの残高は約7.1億円です。通常分は約4.7億円。残りの約3分の1が震災対応分です。